

第3期 平成29年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第1回暮らし部会 議事概要

日 時 平成29年5月25日（木）9:30～11:30

場 所 区役所本庁舎3F 302会議室

出席委員 川村委員、郭委員、長谷部委員、小野委員、余委員、センブ委員、鈴木委員、金（朋）委員、梶村委員、安藤委員、井上委員、ファトマワティ委員、本多委員、森田委員 14名

欠席委員 丁委員、バーバー委員 2名

1 開会

2 これまでの議論について

3 今後の審議スケジュールについて

4 暮らしに関する課題解決のための具体策について

- ・同国人コミュニティ内で、日本語や日本での生活ルールを教える教室を開催している。こうした場を活用して働きかけてはどうか。
- ・外国人が集住している団地では以前、住民向けに県の予算で、行政の施策や手続きを伝える住民説明会を通訳付きで開催していた。ごみの分け方出し方について説明するときに、その地域の日本人住民を紹介し、接点を作っていた。
- ・ルールを伝えるとき、日本人からの一方的な押し付けにならないようにしたい。異なる文化に接している外国人にもフラストレーションがあるのではないか。困ったエピソードの紹介とルールの説明をセットにするなど親しみやすく共有できる形式(漫画等)で伝えたい。

○ ごみ・自転車・生活音に関する課題解決のための具体策についてアイデアを挙げた。

ごみ

- ・同国人によるルール説明（発信者の指定、少人数での説明会、子どもから大人へ伝える）
- ・新宿生活スタートブックの多言語化（来日してすぐに母語で書かれた冊子を渡す）
- ・楽しく参加できるイベントやアンケートの実施（ごみ博士検定、ごみチェックダイアリー）
- ・日本人・外国人が困ったことを投稿し、共有できるシステム（漫画で親しみやすく紹介）
- ・NGOやNPOの協力を得て勉強会を開催（リサイクルのメリットや環境配慮を学ぶ）

騒音

- ・ イベントの実施（日本文化習慣クイズを通じた理解促進）
- ・ 近隣同士の交流会の開催（生活での困りごとなど顔を合わせて話ができる場を作る）
- ・ 外国の生活音に関する調査（外国と日本では生活音に対する感覚が違うことを知る）

自転車

- ・ 警察等と協力し、自転車ルールを多言語で周知（冊子、ビデオ、交通安全教室）
- ・ 保険加入や譲渡時の登録変更、駐輪場の利用について事例紹介を交えて啓発（事故で医療費や賠償請求が高額になる場合がある。譲渡時に登録を変更しておかないと盗難を疑われる。駐輪場に止めないと撤去されてしまい、その引取りは有料であること等）

-
- ・ 学校等に属していない外国人にどのように情報を伝えるか難しい。皆忙しく、集まるよう言っても時間的に難しい。あまり時間をかけずに伝えられるものを考えねばならない。
 - ・ 誰でも使えるよう、多言語字幕付の生活ガイドDVDを製作してはどうか。
 - ・ 例えば入学時に説明したとしても、その時どこまで理解できるかわからない。生活がある程度進んだ後、日本人と一緒に疑問点を解決するようなフォローアップの場があると良い。
 - ・ 区で公開したり渡したりしてもほとんど見ていただけないと思う。同国人からの働きかけが効果的なので、どういったコミュニティがあるのか、コミュニティとまでいかなくとも、どういった伝達経路が有効か探っていきたい。
 - ・ 日本語学校のオリエンテーションに比べ、大学の留学生は生活ルールの説明を受ける機会がない。留学生会を通じて発信できたら良い。
 - ・ DVDよりオンラインのコンテンツにした方が活用しやすい。
 - ・ 今後は「どのように伝えるのか（同国人コミュニティの活用は外国人が多い新宿区ならではの方法）」「多言語化を区ですべきもの、国や都に求めた方がいいもの（一般的な内容については、求めた方が無駄がない）はそれぞれ何か」について具体論を話し合いたい。

5 その他

事務局から次回の会議について説明があった。

6 閉会